社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター

平成 29 年度 事業報告

目　次

Ⅰ　事業報告概要 1
１．社会福祉を取り巻く状況 1
２．基本方針に対する振り返り 1

Ⅱ　事業計画の重点に対する取り組みの到達点 2
Ａ．障害者支援施設「洛西寮」 2
Ｂ．三療事業部 3
Ｃ．法人 4
１．事務局 4
２．点字出版施設「紫野点字社」 4
３．京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業 4
４．指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所『スマイルサポート』」 5
５．厨房（外部委託業者　一冨士） 5
６．継続事業 5

Ⅲ　各部門別報告 7
Ａ．障害者支援施設「洛西寮」 7
【各事業】 7
１．生活介護「ちくりん」 7
２．就労継続支援Ｂ型「らくさい作業所」 9
３．施設入所支援（夜間支援） 10
【各サービス内容】 11
１．健康管理 11
２．食生活と栄養管理 12
３．歩行訓練 13
４．選択科目 14
５．余暇活動支援（共通の活動） 14
６．買い物支援サービス 15
７．ボランティア支援サービス 16
Ｂ．三療事業部 17
１．盲人ホーム　美鈴 17
２．就労継続支援Ａ型「らくさい治療院」 18
Ｃ．法人 19
１．事務局 19
２．点字出版施設「紫野点字社」 21
３．京都府失明者巡回生活指導員派遣事業 22
４．指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所　スマイルサポート」 24
５．主催行事 25
６．共催事業 28

Ⅰ　事業報告概要

１．社会福祉を取り巻く状況

福祉制度の面では、2018 年度に迫った障害者総合支援法の大改革に向け、情報入手と機敏な対応ができることを目指した。「障害者の 65 歳問題」については、65 歳以上の障害者がそれまでの給付水準を維持できるよう、一定の前進が見られた。

懸案となっている、施設入所者の日常生活用具の給付や移動支援のサービスを受けられない問題は、今年も京都市に要望したが新たな進展は見られなかった。

単独歩行する視覚障害者の中で、特に鉄道駅ホームからの転落事故は後を絶たない。ここ京都でも死亡者こそ出さなかったが年間 3 件の転落事故報告がされている。施設利用者の多くが単独歩行することを考えれば、身近な利用者に関わる安全の問題でもある。

洛西寮周辺の道路環境についての改善要望が西京視覚障害者協会から出されている。これと同様の要望が施設利用者からも出されるようになってきた。自主的な点検活動から要望改善に向けた働きかけが地域団体と共に活発に推進されるよう、法人としても全面的に支援して行きたい。

２．基本方針に対する振り返り

ア．法令遵守

本年度から国が進める「社会福祉法人改革」の動きへの対応では、理事会、評議員会の定数変更や会議の開催回数など、法規定に沿って円滑に推進することができた。

年度末には、理事の事業分担を明確にするために、「事業計画推進に向けた理事の事業サポート体制について」の提案を理事会に行い、2018 年度からの実施を目指すこととした。

また、評議員定数の縮減による法人運営への広範な意見の反映方法として、新たに施設利用者家族、地域住民及びボランティア等からなる「地域運営協議会」（仮称）の設置開催を事業計画に上げていたが、初年度内での具体化はできなかった。

イ．中長期計画の立案を目指す取り組み

6 月 15 日から 3 月 8 日まで、9 回のビジョン検討委員会を開催した。構成委員は、法人の役職員（管理職と事業所主任）の 8 名とし、座長にらくさい治療院の小林所長を抜擢した。

初年度は、それぞれの担当委員が法人、事業所の歴史的経過や現状と課題について広く意見交換を行い、あらゆる角度からの検討を通じて、客観的に捉え直すことと、それぞれがその理解を深めることを目標にした。評価項目を通して、参加者が個々の意見を出し合い、全体的な議論を深めると共に、方向性を見出す過程での実践が共通理解をする上で確かな成果を生み出しつつある。

ウ．人権尊重の施設運営

利用者一人一人の個別支援ニーズの把握、機敏な相談対応、一貫したチームワーク支援などを目標にした。権利擁護、虐待防止などの課題については、職員研修計画に盛り込み、研修を積み重ねることができた。

エ．「勤怠管理システム」の導入準備

11 月 27 日より、勤怠管理システム「タイムカード」の導入に向けた模擬使用を開始した。

職場の実態に応じたシミュレーションを繰り返し、2018 年度当初からの導入にこぎ着けた。

オ．社会貢献活動

本年度も地域に開かれた法人、施設の運営を目指した。母体となる後援会活動の活性化に向けた対策の具体化とボランティア養成の拡充が課題となる。

Ⅱ　事業計画の重点に対する取り組みの到達点

Ａ．障害者支援施設「洛西寮」

【概 要】

ア．定員確保と財政課題

洛西寮はとりわけ、入所者の減少傾向に歯止めがかからないだけでなく、新しい展望を切り開けないまま推移したことである。新規利用者確保に向け、鳥居寮修了者へのアプローチや盲学校卒業予定者の積極的な実習の受け入れなど実践したが、成果はあまり上がらなかった。

1 年前との対比では施設利用者総数でプラス 4 名。内訳として、施設入所の新規利用者は入退所含めて 1 名増（26 名）。生活介護の新規利用者は入退所含めて 1 名減（18 名）。就労継続支援 B 型の新規利用者は 4 名増（21 名）。この間ほかに入所の問い合わせ等 3 件あったが、医療的なケアと、設備面及び職員のスキル支援体制が難しい中、受け入れることができなかった。昨年度のような大きな落ち込みはなかったものの、現状を脱却するような動きが見られないまま推移している。来年度においては、視覚障害の利用者だけでなく近隣の支援学校の卒業生の受け入れを視野に働きかけをしたい。

イ．安全・安心な施設環境

懸案となっている、入所者の夜間、休日の日中支援については、新たな進展は見られなかった。日中支援と夜間支援との円滑な支援の途切れを無くすために設けた準夜勤務体制を 2016 年度 2 時間 30 分から、2017 年度 1 時間 30 分に短縮した。遅出勤務による補充の限界もあり、引き続き夜勤職員と日中支援員とのチームワーク支援が課題となる。

ウ．医療的ケア

利用者の高齢化と障害の多様化は、自らの健康保持と自己管理を維持する上で、支援と見守りが求められる場面となる。投薬、食事、居室環境、被服管理等、に至るまで日々の支援の度合いは濃密化し、複雑化、多様化する方向に向かっている。

健康管理支援の中で、朝のバイタルチェック、通院介助、心理的不安定者の相談支援等、支援業務の中での看護師の役割と支援スタッフのチームワーク支援のレベルアップが求められる。

【成 果】

ア.眼科検診の取り組み

主たる疾患に対する基本検診の導入

イ.ヒヤリハットで大事故から芽を摘み取る意識改革の具体化（館内の突出した壁面角に衝突保護シートの装着）

【課 題】

ア．通院介助支援の考え方

看護師、支援員のチームワーク支援が目標

イ．送迎体制の確立

地域で生き残るための事業所の「強み」開拓

ウ．家族会の結成

脆弱な支え手の現況把握と施設としての役割の拡充

Ｂ．三療事業部

【概 要】

この間、比較的堅調に推移してきた 2 か所の三療事業所のうち、勢いの陰りと世代交代の動きが見え始めた 1 年であった。

【成 果】

京都での新しい取り組みへの貢献

視覚障害あはき師のこれからの就労開拓や研修機関の拡充を目指す京都独自の取り組みが始まった。先ずは、視覚障害あはき師の厳しい状況を京都単位で実践するための組織作りが年度末から動き出している。京都視覚障害者三療連絡会（仮称）の発足を目指す取り組みに対し、法人内の三療事業部として全面的に関わることで、法人の役割と存在意義を発揮することとした。

【実 績】

あはき違憲訴訟

晴眼者のあんま・マッサージ・指圧師を養成する施設や学校を経営する「平成医療学園」から提訴された「あはき違憲訴訟」が大阪・東京・仙台で公判が係争された。

この 1 年間においては、法人から第 4 回から第 8 回までの 5 回に延べ 10 名の傍聴者を派遣した。

（１）盲人ホーム美鈴

【概 要】

改築後、12 年、昨年度から出入りが見られるようになり、ベテラン・中堅利用者の相次ぐ退所、新人男性利用者の比率が増し、女性専用だった旧美鈴寮とは異なり、女性対男性の比率が逆転した。年間の患者数も昨年度比 85%となり、新人利用者のスキルアップが必須課題となる。

（２）らくさい治療院

【概 要】

年間を通じて利用者の相次ぐ事故や病気療養などに見舞われたが、後半部分においてはほぼ通常体制に戻り、困難な中での皆の健闘が財政状況にも反映されている。前年度比 102%。

Ｃ．法人

１．事務局

【成 果】

規程整備、勤怠システムの導入、経理庶務の改善、建物保全管理などに奔走した。

【課 題】

財政健全化の取り組み、中長期の事業計画立案と抜本的な基盤確立に向けた整備が目標。

２．点字出版施設「紫野点字社」

【概 要】

点字読者の減少とニーズの伸び悩みが、減少傾向の主たる原因につながっている。

前年比 95%の売上額が示す通り、少部数、多種類、絵文字化などによる文字数の減少で入力・製版・印刷費の単価減が続いている。しかし、らくさい作業所で働く利用者の工賃の大半を占める京都市からの点字広報の受注におけるこのような事態は、働き続ける事業所を守り、それぞれの収入アップを目標にして高見を目指すためには極めて憂慮すべき状況を跳ねのけなければならない。

【課 題】

ア．点字に携わる後継者問題が大きく暗礁に乗り上げた 1 年でもあった。

イ．後継者育成のためのステップアップ（到達度評価表）の作成と紫野点字社の基本構想作りが早急な課題。

３．京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業

【成 果】

2016 年度南部アイセンター相談員の配置、2017 年度あい丹後への配置に加え、2018 年度、福知山市が中丹における拠点場所として、福知山市総合福祉会館内の一室を提供するという英断があった。

【課 題】

相談員の派遣エリアは南丹・京丹波以南、乙訓を含む府内南部地域と限定されたものの、相談員の数が常勤換算 1.6 人だけでは到底派遣エリアの相談ニーズを充足することはできない。また、委託事業費そのものが毎年度赤字であることを考えれば、委託事業費の健全化についての予算折衝が急務である。

【実 績】

この 1 年間で見ると、相談件数とそれに伴う相談支援の動きも活発で、南部は城陽市の南部アイセンターを中心に、乙訓と亀岡・南丹・京丹波は洛西寮を中心に相談員を派遣した。

４．指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所『スマイルサポート』」

【課 題】

6 年目になる京都市委託の本事業は、人件費が予算化されていないことから、兼任体制を強いられるだけでなく、厳しい財政負担を伴う事業運営となっている。しかし、施設利用者の大半の計画相談を担うだけでなく、地域の障害者に開かれた相談支援機能を持ち合わせている。その可能性と法人の存在感を示す事業展開を健全化するためにも、京都市に事業費の増額を要望すべきである。

※当事者相談支援（ピアカウンセリング）

【概 要】

4 年前からこの種の相談支援を開始してきた。利用者の可能性を引きだし、支援の幅を広げる効果的な当事者支援を目指す。一昨年から年 1 回、支援員向け「ピアカン報告会」を催し、事例等の検討にも役立てている。今後は、さらに個別事例を取り上げ、ダイナミックな事例検討と個別支援計画への反映を目指す。

【成 果】

ピアカンの相談報告記録を毎回メーリングリストで支援員に情報提供することが定着した。

【実 績】

相談回数 19 回　相談者数（延べ人数） 66 名　相談者数（実人数） 34 名

５．厨房（外部委託業者　一冨士）

【概 要】

委託開始後 3 年目、企業規模の面から、人的配置や定着率、業者としての責任感など、課題克服の日々が続いた。

【成 果】

洛西寮新年会の昼食（和食）提供については、昨年度の反省を踏まえ、事業主が総力を上げて人材を拡充した結果、円滑にサービス提供することができた。

【課 題】

毎月 1 回の給食委員会は、施設長と常務理事、管理栄養士、担当支援員が出席している。

課題を明確にしながら、安定的に委託業者の厨房業務が円滑に推進されることを目標に、見守りと監視の継続が必要。

６．継続事業

ア．職員研修

【概 要】

本年度は、年間 6 回の研修会に加え、「ライトハウス朱雀」への施設見学を 2 班編成で取り組み、例年になく充実した取り組みとなった。

【成 果】

研修委員会が中心となって質量ともに充実した年間の研修プログラムを展開することができた。

【課 題】

外部研修参加者の伝達研修が不十分。

イ．安全防災（避難訓練）

【概 要】

年間 2 回のノルマを達成できた。

【課 題】

西京消防署の担当者を交えた防災懇談会の開催

ウ．財政活動

【課 題】

施設利用者の安定確保と財政健全化計画の推進

エ．ボランティア支援

【成 果】

洛西寮まつり、法人研修旅行、個別の外出支援、「こんな話、あんな話」の朗読 CD の製作、作業支援及び対面朗読、読み書きサービスなどにご支援いただいた。

オ．後援会

【概 要】

後援会の役員会開催　2017 年 8 月 23 日（水）　参加者 10 名（事務局を含む）

【実 績】

情報誌「楽西」　年 2 回発行　2017 年 8 月 10 日（第 118 号）、2018 年 1 月 15 日（第 119 号）の各 2 号を発行した（発行部数、墨字…400 部、点字…50 部、音訳版（CD 版）…40 部）。

7．主催行事

ア．第 32 回洛西寮まつり

日時　9 月 2 日（土）11:00～15:00

来場者数　300 名

イ．第 32 回法人研修旅行

開催日時　11 月 16 日（木）～17 日（金）

行き先　四国方面

参加者数　78 名

ウ．第 8 回西京区視覚障害者支援ボランティア養成講習会

開催日時　2018 年 2 月 3 日（土）10：00～12：00

場所　　新林会館 会議室

受講者数　13 名

８．共催事業

ア．第 51 回白杖安全デー（京都市内会場＝京都府立盲学校体育館）
開催日時　10 月 8 日（日）13:30～15:30
参加者数　7 名（利用者 4 名、職員 3 名）

イ．第 43 回あい・らぶ・ふぇあ（視覚障害者福祉啓発事業＝大丸京都店）
開催期間　2018 年 1 月 25 日（木）～28 日（日）
出店　4 日間　参加者（利用者 4 名、職員 4 名、ボランティア 5 名、要員 3 名、合計 16 名）

ウ．第 2 回京都視覚障害者「チャレンジ　ラン」
開催日時　10 月 22 日（日）　雨天中止

Ⅲ　各部門別報告

Ａ．障害者支援施設「洛西寮」

支援計画

【概 要】

今年度も、全体会議前に担当支援員との個別会議を行うことで、定期的に円滑な全体会議を進めることができた。

また、年度途中で会議の振り返りも行い、1 人でも多くの利用者を各月の会議できるよう努力した。限られた時間ではあるが、支援計画会議を全支援員で行うことを重視し、事業所を越えた共通認識の確認や、利用者一人ひとりについての現状や課題などの理解を深める場とした。

書類作成優先ではないことを意識し、より良い支援につなげられるようにも努めた。

【各事業】

1．生活介護「ちくりん」

【概 要】

日中活動（生産活動・レクリエーション等）及び利用者ニーズに応じた個別支援を実施し、生活の質の向上に努めた。

【成 果】

① レクリエーションについては、利用者の意見を汲み取りつつ、季節を感じられる内容や、過ごしやすい時期には散策など外出する企画を考えたので、参加率も高くなった。
② ボランティア確保のため、日帰りレクリエーション等は早期に依頼を行った。
③ 必要に応じて個別に利用者と話をする場を設け、精神的に安定した生活ができるよう支援した。時には、利用者家族との話の場も設けた。

④ 毎週月曜日の居室掃除の日は定着し、利用者が自主的に掃除する部分が増えた。年末には大掃除も一緒に行った。
⑤ 作業については日々の生産数を記録し、利用者の向上心や、適切な工賃評価にもつながった。
⑥ 作業環境の整備。（作業台の新規購入）

【課 題】

（レクリエーション）
・より見通しを持ったレクリエーションの企画。外出時の手引き者の確保。利用者参加を促し、協調性を養う場の提供。利用者の体力維持の勧め。
（生活）
・精神的不安定な利用者への対応に伴う、個別対応時間の確保と全体支援とのバランス。家族との連携と協力依頼。利用者の状況把握と支援の理解、チームワーク支援の強化。
・より衛生的な居室環境。衛生面に対する利用者の理解と意識づけ。
（作業）
・利用者が目標にしやすい、分かりやすい工賃評価の作成。特に若い利用者の技術・生産力の向上。

【実 績】

①日中活動一覧表

科目	内容
生産活動(箱作業)	京菓子箱：八つ橋・京の夢丸
調理実習	おむすび作り、すいか割り、クッキー作り
外出	散策、初詣、花見、ピクニック、喫茶、ボーリング、 カラオケＢＯＸ、買物
創作活動	七夕飾り作り、クリスマス飾り作り 、節分お面作り
娯楽	カラオケ、ＤＶＤ鑑賞、デイジー、ティータイム、豆まき
ちくりん行事	日帰りレクリエーション（エキスポシティ）、忘年会
バースデー企画	誕生日月に希望先に外出
その他	卓球バレー

② 工賃

総支給月数 合計③	就労時間 合計①	工賃支払総額 合計②	平均工賃月額 ②÷③	平均工賃時間額 ②÷①
196 月	12,794 時間	1,866,926 円	9,525 円	145.9 円

２．就労継続支援Ｂ型「らくさい作業所」

【概 要】

今年度４名の新規利用者を迎え、らくさい作業所の方針である「働くことを通して社会性を身につけ、人との関わりを学ぶ」に基づき、協調性・責任感・意欲が高められるよう取り組んだ。個々の作業目標にも着目し、それぞれの利用者がいろいろな作業を継続して取り組む中で作業意欲や自信を引き出す働きかけ等行った。

生活支援においては、休みが続く通所利用者への様子伺いの連絡、家族への協力依頼等、個々の利用者に応じた支援を行い、相談、個別支援や課題の実施・解決に努めた。

又、必要に応じ、家族や関係機関との連絡・相談を行い連携を図った。

【成 果】

① 新製品作りの取り組みとして、ミサンガ・ビーズ製品を作成し商品化した。又、既存の製品の見直しを行い、黒豆茶のお試しサイズを作成し販売を試みた。
② 支援計画に基づき、個々の作業目標達成に向け検討を重ね、様々な作業に取り組み、技術力、生産力アップにつながった。
③ 新規業者から仕事を受け、より様々な作業に従事した。
④ 地域や関係機関の催事・保育園等の製品販売の参加、清掃業務研修実習（ほっとはあとセンター企画）への働きかけ等、社会参加への促進に努めた。
⑤ 自主製品（ショーケース）のディスプレイによる製品紹介の更新や、京都ほっとはあとセンター商品受注のエントリーを試み、販路開拓に努めた。
⑥ ミシン作業における支援員の作業技術の習得。
⑦ 利用者による朝礼当番、レクリエーションの企画運営等、主体的活動に取り組んだ。
⑧ 入所利用者の居室支援及び買物支援を月１回ではあるが定期的に実施し、生活の質の向上に努めた。

【課 題】

① 支援員の技術向上・品質の高い製品作り
② 様々な作業にも対応できる利用者の技術拡充
③ 年間計画プログラムの作成と計画的な取り組み。
④ 新製品開発に向けた取り組み、自主製品の価格・内容の見直し
⑤ 生活支援の時間確保、質の向上
⑥ 安全・安心な作業場環境の整備

【実 績】

① 作業科目一覧

科目	内容
点字印刷	市民しんぶん、市会だより、部局情報誌、盲導犬情報等
封入発送作業	市民しんぶん拡大版、市民ニュースポスター、京都創生 PR ポスター等
ミシン縫製	下請：和装用袋、ひも通し、袋物 自主製品：給食袋・体操服入れ・白杖入れ・手提げ袋等

箱作業	京菓子箱：八つ橋・京の夢丸
数珠加工	数珠玉通し
黒豆茶	ティーパックの袋詰め作業

② 売上

科目	売上（円）
点字	8,478,353
自主製品	855,890
縫製下請	413,202
箱作業	754,920
数珠加工	234,500
黒豆茶	393,750
自販機	289,385
合計	11,420,000

③ 工賃

総支給月数 合計③	就労時間 合計①	工賃支払総額 合計②	平均工賃月額 ②÷③	平均工賃時間額 ②÷①
246 月	21,883 時間	6,875,894 円	27,951 円	314.2 円

３．施設入所支援（夜間支援）

【概 要】

夜間支援における安心・安全な生活の質を高めるための生活環境作りのため、随時夜勤職員の業務や遅出職員の業務の見直しを実施した。

また居室の衛生環境面を整備するため、毎週 1 回定期的に支援員による居室の清掃を実施した。

【成 果】

① 遅出勤務体制により、利用者個々の相談、生活支援、夕食時の見守り、館内巡回強化（特に夕食前の巡回徹底）により、利用者間のトラブル等未然に防ぐことが出来た。

② 緊急用カルテの定期的な更新を実施し、常に最新の情報を保持した。

③ 支援員連絡会にて日勤者から夜勤・遅出勤務者への申し送り等を行い、利用者個々の情報の共有化が図れた。

④ 長期休暇及び、週末の申し送り業務の周知徹底。

⑤ 休日及び夜間想定の防災訓練（火災 2 回、地震 1 回）を実施した。

⑥ 業務日誌を１日単位での記録書式を導入し、実施することができた。（夜勤日誌・日直日誌・巡回日誌・遅出日誌の一元化）
⑦ 館内の巡回当番業務を明確化し、衛生管理に努めた。

【課 題】
① 夜間支援における安全・安心な生活環境整備、危機管理対策における夜勤職員業務及び、遅出職員業務の見直しを継続検討
② 夜勤職員・日直職員との連絡会の定期化
③ 高齢化、重度化していく利用者の身体機能の維持・減退防止のため、健康維持のための訓練の実施。
④ 休日及び長期休暇の余暇活動の実施

【各サービス内容】

１．健康管理

【概 要】
① 利用者個々の目標やニーズ、課題に即した支援計画の実践
② 単独通院が困難な利用者、または急病の利用者に対して、通院介助及び入院時の支援

【成 果】
① 定期的に血圧・体重測定・検尿を実施、嘱託医に個々の健康相談や身体状況等、随時報告を行い、必要時、嘱託医の往診により早期に対応でき、医療体制が拡充した。
② 入所者の通院状況についての見直しを行い、精神科受診や個々の状況により通院に付き添うことで病状の把握が出来た。
③ 通所者については、適宜、各主治医へ文書での報告、相談を行い医師との連携を図った。
④ 利用者緊急用カルテを整備し、救急時や通院介助時に活用した。
⑤ 個々に検診の必要性を説明し、初めてがん検診を受けた利用者が数名いた。
⑥ 利用者の意見を元に、館内の壁の角にガードを設置し怪我予防の取組みを始めた。

【課 題】
① 各種検診の必要性周知、受診促進
② 今年度はインフルエンザの罹患者が職員含め 11 名であった。感染予防の為、館内消毒は徹底しているが、感染拡大予防の為の詳細なマニュアル作成が必要
③ ＡＥＤ設置検討

【実 績】
① 利用者の健康診断等の実施状況

期日	実施内容	対象者	人数	実施者等	実施場所
毎月１回	嘱託医健診	希望者(8・2 月は全員)	181	洛西寮嘱託医	洛西寮医務室

	寮内健診	全員	406	洛西寮看護師	洛西寮医務室
6 月	胃癌検診	50 才以上（2 年に 1 回）	6	京都予防医学センター	洛西支所
	大腸癌検診	40 才以上	8	京都予防医学センター	洛西支所
6 月	歯科健診	希望者	5	京都府歯科医師会	洛西寮医務室
7 月	基本健診	全員	37	鳥羽健診クリニック	洛西寮
5 月	子宮癌検診	20 才以上女子（2 年に 1 回）	1	医療機関	洛西ＮＴ病院
11 月	乳癌検診	30 才以上女子（2 年に 1 回）	4	京都予防医学センター	洛西支所
1 月	眼科検診	希望者	6	医療機関	洛西ＮＴ病院
6 月　2 月	耳鼻科健診	希望者	35	医療機関	豊田医院

② 通院件数

年度	通院件数
24 年度	716
25 年度	690
26 年度	596（うち介助 413）
27 年度	479（うち介助 390）
28 年度	483（うち介助 375）
29 年度	488（うち介助 335）

２．食生活と栄養管理

【概 要】

利用者の栄養状態の維持や改善、食生活の質の向上を図るため、定期的に給食委員会を開催し、また嗜好調査結果もふまえて、献立や調理方法を工夫するとともに、栄養ケアマネジメント会議等を通じて、多職種と連携しながら個々の特性に配慮した支援と、食事の提供を行っている。

【成 果】

① 食中毒や感染症に罹患する利用者がなく、安定した食事提供ができた

② 栄養ケアマネジメントでは、入所者の健康・栄養状態について、多職種で各立場から検討を行い、預かり金制度の利用のすすめや、買い物支援に同行し、利用者個人にあった支援を行った。

③ 医師の指示に従った療養食の提供と、検診結果に基づく栄養指導を実施した。

④ 遅出職員による夕食時の見守りが定着した。

⑤ 今年度より、利用者間、職員との交流の場として、毎週水曜日に「喫茶」の場を設け、ドリップコーヒーの提供を開始した。毎回 70～85%の参加があった。

【課 題】

① 嗜好調査結果を確実に献立に反映させることができなかった

② 通所者の健康管理についての支援（肥満、慢性疾患）

【実 績】

① 行事食一覧

行　　事	内　　容
開所記念日（4/19）	赤飯、ぶりの柚庵焼き、茶碗蒸し、鶏汁、カルピスぶどうゼリー
子供の日（5/5）	米飯、とんかつ、豆腐の中華煮、青菜のお浸し、味噌汁、桜餅
七夕（7/3）	七夕2色そうめん、南瓜おかか煮、二色ゼリー
土用の丑（7/25）	うなぎ入り混ぜごはん、豚しゃぶと素揚げ野菜のピリ辛おろしソース、さつまいものレモン煮、赤だしきのこ汁、ミニメロンロールケーキ
敬老の日（9/19）	さつまいもときのこのおこわ、鯛の塩焼き、高野の炊き合わせ、清汁、抹茶ういろう
ハローウィン(10/31)	鶏肉とかぼちゃのパングラタン、レタスサラダ、コンソメスープ、パンプキンプリン
クリスマス（12/22）	米飯、ローストチキン、大根サラダ、コンソメスープ、とろけるチョコプリン
お正月（1/1～1/3）	お雑煮（白味噌、すまし風、あんかけ）、数の子、紅白かまぼこ、だし巻き卵、伊達巻き、田作り、昆布巻き、黒豆、紅白生酢、豆きんとん、たたきごぼう、酢れんこん
	ホットプレート（焼肉）大会、ちゃんこ鍋
七草粥（1/7）	七草粥、豆腐野菜の煮物、味噌汁、牛乳
節分(2/2)	巻き寿司、鰯の甘露煮、畑菜のねぎ味噌和え、清汁、福豆
ひなまつり(3/2)	ひなまつり寿司、ごぼうとこんにゃくの時雨煮 清汁、ひなあられ

３．歩行訓練

【概 要】

利用者一人一人の要望に応じ、個々のニーズ・歩行技術に併せ実施した。

【内 容】

① 新しい利用者等に対する施設館内でのファミリアリゼーション（環境理解）

② 通所利用者に対する単独通所のための歩行訓練

③ 入所利用者に対する単独歩行での帰省のための歩行訓練

④ 利用者に対する白杖基本操作獲得・道路などの環境構造理解・状況把握

⑤ 利用者に対する寮周辺店舗や歯科までのファミリアリゼーション（環境理解）

⑥ 利用者に対するＱＯＬ向上を実現する社会参加のための歩行訓練
⑦ 利用者に対する店舗などでの実践を想定した社会適応訓練

【成 果】
① 利用者に対して単独歩行による通所を想定した歩行訓練を行い、通所が可能になり、施設利用に繋がっている。
② 入所利用者に対して実家への単独帰省をするための歩行訓練を行い、家族や本人への心理的支援にもつながっている。
③ 新しい利用者等に対して洛西寮館内のオリエンテーションを行い、施設利用をスムーズにしている。
④ 洛西寮から近隣の商店や歯科医院までの歩行訓練により日常生活の行動範囲を拡大し、日常生活の自立を支援している。
⑤ 利用者がより広範囲な社会参加を可能にするための歩行訓練により、ＱＯＬ向上による安定した生活のための支援を提供している。
⑥ 実習生や新人研修生に対して、視覚障害の理解と手引き歩行についての講習を行った他、ボランティアに対する講習で、視覚障害に対する理解を深めている。

【課 題】
① 利用者個々のニーズに対する十分な訓練時間の確保ができていない。

【実 績】（延べ人数）
① 自宅から洛西寮への通所の訓練　2 名
② 洛西寮館内のファミリアリゼーション　4 名
③ 洛西寮周辺の医療機関、店舗などへの外出の訓練　4 名
④ 単独歩行の基礎技術の訓練　2 名
⑤ 洛西寮から実家への帰省の訓練　1 名
⑥ 広範囲で多様な選択を可能にするための社会参加のための訓練　3 名

４．選択科目

【概 要】
10 月より、中断していた「社会」を再開した。

５．余暇活動支援（共通の活動）

【概 要】
らくさい作業所、ちくりんとの共通活動を通して事業所間の交流を深め、利用者一人一人が余暇活動を楽しみ、リフレッシュできる環境作りに努めた。
昨年度より、利用者と職員の交流を図ることを目的として企画してきた「喫茶サービス」事業は、利用者にも好評で、引き続き毎週水曜日の午後 3 時よりを実施した。
今年度は第 2、第 4 水曜日を共通活動日とし、第 1、第 2、第 3 金曜日は、ボランティアに

よる選択科目（点字）のサービス提供を行った。また 11 月より第 1 水曜日に職員による選択科目「社会」（自由参加で再開）のサービス提供を行った。

【成 果】

① 毎月第 2 水曜日に外部講師による「ヨガ」を取り入れ、呼吸、姿勢、瞑想を組み合わせた、心身の緊張をほぐし、心の安定とやすらぎを得る良い時間となり支援員と一緒に行なった。
② 音楽（合唱指導）を第 4 水曜日に実施し、リクエスト曲や季節に応じた曲の指導を受け、音楽を楽しみ心身共にリフレシュできた。今年度も洛西寮まつり・クリスマス会の行事には、全員参加で合唱発表を行った。
③ 第 1 水曜日は、選択科目「社会」を企画し実施した。
④ 毎週水曜日実施の「喫茶サービス」事業は、利用者の参加率も高く、事業所間の利用者の交流や職員との交流が図れた。
⑤ 長期休暇、土日祝の日直職員による日中活動の提供を行った。特に茶話会が好評であった。

【課 題】

① 視覚障害者団体、地域等の行事・催し等の参加への働きかけと引率者の確保
② 休日及び長期休暇等の余暇活動の提供
③ 参加率の高い企画等の検討

【実 績】

① 日中活動支援

内容＝地域行事・茶話会・対面朗読・招待催し

② 選択科目

科目	利用者人数	内容
点字	5 名	各習熟度に応じた点字の読み書き練習
社会	8～10 名	暦と地理と体について（自由参加）

６．買い物支援サービス

【概 要】

① 希望者を対象に毎月 1 回、イオンと近所の店舗へ買い物支援をする
② 買物を通して、地域との関わり・マナーを学んで行く

【成 果】

① 単独での買物が困難な利用者が安心して利用できる機会の提供、必要なものの購入意識を持ってもらうことも出来た。

② 日用品の定期的な購入等、買物を体験出来る機会を設け、知識や経験を積むことで自信へと結びついてきている。
③ 支援員が一緒に同行し、目的とする品物を利用者個々に応じ、わかりやすく説明をすることで安心して買物ができた。
④ 利用者の希望の品がある店に、個別に支援員と行くことが増えた。

【課 題】
① 申込者が多く、手引きの確保が困難になってきている。
② 個々の思いに添えば添う程、時間と支援員が必要になる。

【実 績】
① 年間延人数＝近所：242 人、桂川イオン：39 人
② ちくりんでは、毎週木曜日を買物支援日と設定

7．ボランティア支援サービス

【概 要】
今年度は、総勢　44 名の登録者があり、利用者個々の課題やニーズに応じた日常生活上の支援の充実を図るため、様々な分野で協力を得た。

【成 果】
① 洛西寮まつり等の行事における要員ボランティアの確保
② 春の行事、法人研修旅行、休日及び長期休暇の個別の外出支援（買い物、映画鑑賞、散策等）、作業所別の余暇活動支援における手引きの確保
③ 選択科目における点字指導
④ 利用者とボランティアとの交流を深める自治会行事の実施（七夕会、クリスマス会）
⑤ 朗読ボランティアによる、毎週月曜日の「こんな話あんな話」の情報提供、水曜日の「読みかきサービス」および毎週土曜日の対面朗読
⑥ 作業ボランティアの日常化（下請箱作業と縫製作業）

【課 題】
① ボランティア登録者の高齢化にともない、夏まつり等は暑い時期なので、学生ボランティアが活躍。理事の協力で何とか確保されている状況の改善策が必要。
② 休日の外出ボランティア依頼は、依頼数 131 件に対して 89 件と 7 割弱の確保と低い達成率になった。入所施設利用者の移動支援サービスの利用が可能となるよう強く要望継続必要。
③ボランティアの費用負担を一切なくすための対策。

【実 績】
① ボランティア登録者数 44 名（平成 29 年 3 月 31 日現在）
② ボランティア活動実績

活動内容	延人数
作業	190
朗読	544
選択科目	72
手引き	89
行事	145
合計	1040

※朗読のうち　読み書きサービス実績

サービス利用者合計	寮生	外部	ボランティア
149	103	46	84

Ｂ．三療事業部

１．盲人ホーム　美鈴

【概 要】

利用者の研修及び、事業運営の要となる患者数は、今年度 5,145 名　前年比 85%であった。

29 年度利用者の動向は、新規利用者 1 名、修了利用者 2 名であった。

美鈴は、平成 19 年 9 月に新築開設後　着実に実績を積み重ねてきており、今年度も安定した事業運営のもと、研修終了者 2 名を出すことができた。

【成 果】

① 患者数の推移

・ 今年度後半 5 か月間は利用者 5 名体制だったが、全員の協力のもと 5,000 名を達成できた。

・ 鍼の患者数は 1,505 名　前年度比 114%　総患者数に対し 29%であり、当初目標の 20%を達成できた。利用者の高い意欲・日々の技術の研鑽により、着実に鍼患者数が伸びている。

・「京都市はり・きゅう・マッサージ施術補助券」利用者増。延べ利用人数 393 名（昨年度 362 名）。

② 利用者の技術向上のための取り組み

・利用者間や指導員による施術スキルチェックをしてスキルアップに努めた。

・施術した患者の施術報告を作成して、利用者と指導員で施術方法や手技などを話し合い学習した。

・学習会で、各々興味のある施術方法等を報告し合い理解を深め、患者の治療効果を高めるよう努力した。

③ 京都府立盲学校生徒 1 名の実習を受け入れ実施した

④ 洛西寮まつりにて無料奉仕マッサージを行い好評を得た

⑤ 秋の船岡スタンダードにて有料マッサージに参加した

【課 題】

① 前年度 3%の患者数増に努める
② 開業サポート強化（開業に必要な事項をまとめた冊子を作成する）
③ 就労サポート強化（関係機関の活用）
④ ソーシャルスキルアップ

【実 績】

① 年間患者数＝5,145 件（前年比 85%）
② 年間売上＝17,189,300 円（前年比 85%）

２．就労継続支援Ａ型「らくさい治療院」

【概 要】

開所から 5 年目、目標であった患者数 6000 人、売り上げ 2 千万円を達成した。施設の体勢としては、利用者の骨折者 2 名、病気に罹患した者 1 名の中での目標達成は、全体的に利用者のスキルの底上げにつながる年となった。

国が定めている支援計画を治療院の支援にマッチングするように独自の形に改善し、スキルアッププランとして活用し、これが利用者、職員いずれも解りやすくなり、何をやっていくかが明確となった。また、念願であったビジネスマナー講座を開催したことで、接客、待遇の大切さを理解し、それが仕事に反映されている。

洛西寮まつりでは、ホットピロー体験が好評を得て、これから新たなメニューとしての導入を検討するデータとなった。

ステップアップマスターズ（支援マニュアル）の試験的導入により、利用者のスキルアップは図れることは確認したが、そのスキルを再現することまでには至らなかった。加えて、ステップアップマスターズと言うツールは取り扱う者によって、利用者のスキルアップにつながらないおそれがあることを確認した。これは今後の課題である。

スキルアップと再現性を起こすためには、ビジョンの明確化、コンディションの調整、強み、弱み、基盤、課題をいかに相互が理解しているかが重要と感じた。

らくさい治療院として、患者及び利用者のニーズをいかにアセスメントし、それをいかに満たしていくかを引き続き取り組んでいく必要性を感じている。この 2 つのニーズのバランスを崩さぬよう安定させて行くことを今後の大きな課題として、30 年度につなげていくこととする。

【成 果】

① 職員のアセスメント、傾聴、能力を引き出す各種スキルなどが身につくことでスキルアップにつながり患者数及び売り上げにつながった。
② 国が定める支援計画から府が定める支援計画を参考に、独自のスキルアッププランを作成し、実施しそれがスキルアップにつながった。
③ ステップアップマスターズの冊子が完成し、治療院の柱ができた。
④ ステップアップマスターズの試験的導入により、スキルアップを図れることは確認できた。
⑤ 外部講師を迎えビジネスマナー講座を開催し、そして接遇や対応のスキルアップが患者数、売り上げにつながった。

⑥ 洛西寮まつりにて、ホットピローの評価のデータが収集できた。
⑦ 叶えたいことの実現がモチベーションにつながることを確認できた。
⑧ 患者数 6000 人、売り上げ 2 千万の目標が達成できた。

【課 題】
① 質の高いスキルを何度も再現する方法論の確立。
② ステップアップマスターズを取り扱う者のスキルアップ。
③ 患者・利用者・職員ファーストの視点。
④ 三療の仕事をする目的の相互理解。
⑤ 利用者のコンディションへの関わり。
⑥ 強み、弱み、基盤、課題の相互理解。
⑦ 視覚障害者に特化したジョブコーチ養成の再度検討。
⑧ 就労移行（就職・開業）への関わり。

【実 績】
① 年間患者数＝6,089 人（前年比 102%）
② 年間売上＝20,090,600 円（前年比 102%）
③ 平均賃金

総支給月数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
120	15,951	18,585,244	154,877	1,165

④ 年度別月平均個別指名数の推移

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	指名合計	患者数
H25	42.4	74.9	60.3	20.8	15.4	9.5	14.8		7.2		245.3	427
H26	59.7	70.8	55.3	42.9	26.8	16.6	12.8	3.8	11.7		300.4	446
H27	67.3	66.1	66.7	47.0	33.4	24.0	11.3	10.0	8.0		333.8	473
H28	74.8	74.4	74.2	46.8	35.5	30.7	7.9	21.5	9.8	3.8	379.4	499
H29	55.6	72.3	73.0	49.4	23.3	32.8	9.0	19.2	11.3	19.6	365.5	507

C．法人

1．事務局

【成果】

① 法人運営
・社会福祉法人改革でのコンプライアンスを重視した新役員等による法人運営
・勤怠管理システムの構築と試験運用
・給与支払を当月前払いから翌月払いへ変更
・ビジョン検討委員会による法人運営の見直しと財政状況改善に向けた中長期計画の検討
・建築基準法での洛西寮建築物の定期報告の実施

・洛西寮の廊下非常灯の更新
・福祉人材育成認証制度への事業所宣言

② 京都市関係

・補助金
　盲人ホーム事業補助金
　民間社会福祉施設サービス向上補助金（施設整備、借入金元本返済）

③ 助成金等関係

・特定就職困難者雇用開発助成金
・障害者雇用納付金制度報奨金

④ 機関誌「楽西(らくさい)」の発行・ホームページの更新

・機関誌「楽西」については年 2 回（8 月と 1 月）、各事業所の状況や施設行事の報告、製品の紹介、利用者の様子等、編集委員で検討し発行した。
・ホームページについては、法人事務局において「社会福祉法人現況報告書」の掲示等更新をした。

【課 題】

① 洛西寮利用者の確保
② 洛西寮の建物・設備等老朽化による更新
③ 経費削減のための精査
④ 財政計画を含めた中長期の事業計画立案
⑤ 人材育成

【実 績】

① 事業運営

事業(所)名	サービス事業	事業開始年月日	定　員
障害者支援施設　洛西寮 ・洛西寮 ・ちくりん ・らくさい作業所	 施設入所支援（30 名） 生活介護(20 名) 就労継続支援 B 型（20 名）	 平成 23 年 10 月 1 日 平成 23 年 10 月 1 日 平成 25 年 4 月 1 日	40 名
点字出版施設　紫野点字社	点字出版事業	昭和 57 年 4 月	
京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業	更生相談事業	昭和 52 年 10 月	
盲人ホーム美鈴	地域生活支援事業	昭和 57 年 4 月	20 名
らくさい治療院	就労継続支援 A 型	平成 25 年 4 月 1 日	10 名
障害者相談支援事業所 スマイルサポート	特定相談支援事業	平成 26 年 3 月 1 日	

② 理事会・評議員会の開催

・理事会

月	日	主な内容	出席者数
5	24	平成 28 年度事業報告並びに決算案について	理事 5 名　監事 2 名
6	14	理事長の選出について	理事 6 名　監事 2 名
9	13	育児・介護休業等に関する規則案について	理事 5 名　監事 2 名
12	13	就業規則の改正、給与規程の改正について	理事 7 名　監事 2 名
3	14	平成 30 年度事業計画及び予算案について	理事 7 名　監事 2 名

・評議員会

月	日	内　　容	出席者数
6	10	平成 28 年度事業報告並びに決算案について	理事 2 名　評議員 6 名　監事 2 名

・監査会

月	日	内　　容	出席者数
5	23	平成 28 年度事業報告及び会計監査について	理事 1 名　監事 2 名

③ 法人登記事項

資産の変更登記（平成 29 年 6 月 26 日）

２．点字出版施設「紫野点字社」

【概 要】

京都市からの点字印刷を中心に受注した。市民しんぶん・市会だより点字版は年間契約し、毎月安定した仕事量を確保できた。

その他の受注では、総合企画局・保健福祉局・交通局・建設局・選挙管理委員会などから市民しんぶん挟み込みタブロイド紙の点字版を製作した。

また、点字以外では、市民しんぶん拡大版・市政ポスターの宛名印刷、封入発送業務を年間契約で受注した。

京都市以外では、全国盲導犬施設連合会や社会福祉協議会、視覚障害者関係団体、ボランティアグループなどからの受注があった。

【成 果】

① 視覚障害者やボランティアの活動を援助する点字印刷を迅速に安価に行えた。

② 視覚障害者の不足しがちな情報を提供するための出版活動を推進した。

③ らくさい作業所の作業を確保し、安定した工賃配分と就労意欲を向上させた。

④ 過去 5 年間では、パソコン製版・パソコン印刷・点字シール・墨字入力で最高数を記録した。

【課 題】

① 市民しんぶん点字版の短期間での製作日程への対応と効率化
② 市民しんぶん点字版の発行部数減少にともなう売上の減少
③ らくさい作業所の点字印刷能力と受注への調整
④ 京都市への入札における競争力のある価格の検討
⑤ 後継者の育成

【実 績】

作業内容	実績
製版	5,382 枚
印刷機印刷	434,934 枚
パソコン製版	740 枚
パソコン印刷	20,770 枚
点字名刺､はがき	2,173 枚
点字シール	5,547 枚
発送	1,830 件
墨字印刷	33,070 枚
墨字入力	20 枚

３．京都府失明者巡回生活指導員派遣事業

【概 要】

① 今年度の特徴

今年度の訪問相談事業は、北部地域（丹後、中丹東、中丹西）が本法人の担当地域から外れたことが大きな変化であるが、中部地域（南丹、乙訓）および宇治市の田伏相談員、南部地域（宇治市を除く山城北、山城南）の清水相談員は昨年と担当地域に変更がないことと、北部担当の丹後視力障害者福祉センター堤相談員とはスムーズに連携できているので、大きな問題もなく昨年以上に積極的な活動ができている。特に昨年以降南部地域への相談員配置が手厚くなったことで、八幡・相楽地域での活動などを活発化し、新しい交流と連携を生み出した。対象者数 197 人・延派遣回数 996 回で、いずれも毎年増加し続けており、多くの新規相談者にもつながっている。

近年の訪問相談事業の広がりは、連携がキーワードである。南部拠点の南部アイセンターというランドマークが、相談員と関係機関の連携を生み出していることも大きな要因で、関係機関への拠点の周知と新しい取り組み・情報発信・交流・啓発が進み、お互いの信頼関係を深めた結果となっている。

また、本年度は京大眼科との連携が進んだ。眼疾患などで見えにくさが進行する中で、福祉サービスの存在を知らない人でも、眼科に行かない人は少ない。まだ治療期にある目の不自由な方や、困りごとが生じているのに福祉サービスを利用していない方に、正しい情報を届け、心理的不安を緩和し、必要なサービス利用につなげていることは、「ひとりぼっちの視覚障害者をなくす」ことに大きな役割を果たしている。そして、医療との連携の中で高齢介護のケア

マネとも連携する機会が増え、高齢・障害のサービスの垣根を越え生活全体のプラン作りを実現しているケースも出てきていることも意義深い。

視覚障害者は情報の障害と言われ、福祉的な情報について耳に入らなければ、あるいは身近に相談を受けられる機関がなければ、生活を改善できる可能性を知らないまま在宅で生活を続けることになる。社会と視覚障害者をつなぐ連携が増えてきていることが、近年の成果である。

② 南部サテライト事業の取組

本格実施から 6 年目を迎えた定点型相談訓練事業（南部サテライト事業）も、地域で定着が進み、京田辺、宇治、長岡京で毎月 1 回と、各種行事などを開催し、全会場で合計 41 回開催、延べ 423 名の当事者が参加している。

相談支援・視覚リハ技術支援・情報提供支援・交流のためのサロン企画等で、専門性を活かした対応ができるだけでなく、当事者間のネットワーク作りや当事者自身が役割を持ち社会参加できる機会を提供するなど、生活の質を向上できる大変有効な障害者支援事業である。

③ 府内視覚相談会

京都府家庭支援総合センター、京都ライトハウスと当法人が共催で実施している「府内視覚相談会」に相談員として参加し、またその場では解決しないニーズに対しては、後日訪問し、ケースによっては継続的に対応している。視覚相談会には、今まで福祉につながっていないような相談者が参加するというケースも多く、埋もれているニーズの発掘につながっている。

内容：個別相談・ロービジョン相談・視覚リハ訓練紹介・視覚障害者用機器・盲導犬・講演等

【成 果】

① 補装具、日常生活用具、機器の紹介・活用方法についての支援
② 障害年金請求申請手続きの説明など、経済的問題解決に対する情報提供と支援
③ 視覚障害受障後の障害受容相談支援と生活訓練への橋渡し
④ 福祉サービス、制度利用の情報提供と行政への橋渡し
⑤ 介護保険利用者に対する制度利用の支援等、介護サービス事業者との連携
⑥ 福祉事務所の担当者に対する最新の福祉機器などの情報提供
⑦ 一般就労・福祉的就労の環境調整とその心理的支援
⑧ 視覚障害者の社会参加促進と生きがい創出
⑨ 急な状況変化が生じた相談者への緊急的な環境調整
⑩ 医療との連携による、障害福祉の情報提供と制度利用までの調整

【課 題】

① 地道な潜在的視覚障害相談ニーズの掘り起こしによる相談件数の増加と個々の相談ケースの深刻化などによる、マンパワー不足解消のためのスタッフの更なる配置。
② 視覚障害者を福祉サービス、障害者地域生活支援センター、行政、医療機関、当事者団体、情報ソース、地域等と連携し、つなぐシステムがまだまだ構築されていないのが現状。
③ 市町村窓口に対する本事業の更なる周知と、連携・広報などの協力支援態勢の構築。

④ 京都府全域で、視覚障害者に対する相談・情報支援等の福祉サービスが参加しやすい地域で提供できるよう、拠点施設の拡充。

【実 績】

① 過去 5 年間の相談件数比較（延回数、29 年度より南部の集団への支援含む、サテライトは含まない）

25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
424	450	450	664	969

② 南部地域拠点（サテライト）活動状況

実施地域	回数	参加者数 （延べ）
京田辺	12	102
長岡京	11	134
宇治	11	109
宇治田原	1	4
交流	1	21
散策・企画	5	53
計	41	423

③ 府内相談会実施状況

実施日	開催地	会場	時間
7 月 28 日	京丹波町	京丹波町中央公民館	10：30～15：30
9 月 29 日	宇治市	宇治市生涯学習センター	10：30～15：30
1 月 29 日	木津川市	山城総合医療センター	10：30～15：30
3 月 17 日	大山崎町	大山崎ふるさとセンター	10：30～15：30

４．指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所　スマイルサポート」

【概 要】

① 平成 24 年の制度改正により、障害福祉サービスを利用するすべての人に「サービス等利用計画」の作成が必要となり、これからは提出されたサービス等利用計画を参考にしながら福祉サービス等受給者証の支給決定をすることとなった。

② 入所利用者の 92%、通所利用者 54%の計画相談をしている。

③ ピアカウンセリングを導入し、利用者のカウンセリングを行っている。

【成 果】

① アセスメント、サービス等利用計画案・確定版、モニタリングの作成、サービス担当者会議の開催。

② カウンセリングを全員対象で毎回、順番で行っているが、希望者がある場合はその都度、優先して実施している。また年一回の報告会を実施している。

【課 題】

① 相談支援専門員が施設生活支援員と兼務しているため、時間の確保が困難。

② 通所者の場合、西京区の事業所にもかかわらず、他の行政区、京都市外、京都府外の利用者の計画相談を受ける時もあるが、十分な対応をとることができない。

【実 績】

① 計画相談

提供月	計画	モニタリング
4 月	2	1
5 月	3	2
6 月	3	2
7 月	1	1
8 月	3	2
9 月	5	5
10 月	0	0
11 月	4	1
12 月	1	0
1 月	4	2
2 月	1	2
3 月	0	2
合計	27 名	20 名

・カウンセリング・・・69 名（延べ人数）

５．主催行事

① 第 32 回 洛西寮まつり

【概 要】

開催日時　平成 29 年 9 月 2 日（土）　11 時～15 時

会　　場　障害者支援施設 洛西寮、らくさい治療院

内　　容

・イベントホール

利用者自治会「洛友会」による合唱、オカリナ演奏、ゲーム大会

他施設の自主製品販売、喫茶コーナー

マッサージ無料体験

・前庭

模擬店（飲食販売、ボールすくい、ヨーヨー釣り、洛友会ゲームコーナーくじひき等など
クレープ屋さんによる販売
・支援室
洛西寮自主製品販売
視覚障害体験（点字の名刺作り、アイマスク体験、卓球バレー、機器紹介等）
・治療院
鍼＆ホットピロー体験

【成 果】

① 天候にもめぐまれ、300 人をこえる地域住民、関係者が来場し、盛大なまつりとなった
② 地域のつながり、洛西寮まつりの定着を感じた。
③ ナンバリングされたくじ券をかねたチラシで、正確な集客数を把握できた。
④ 広報活動に力を入れ、今まで最大の集客数につながった。
ちらしを早めに作成、各施設などへ配布。新林社協様にもご協力いただいた。
市民しんぶん西京区版に掲載。
洛西支所玄関への掲示　ちらし設置
市営住宅へのチラシ配布
当日、横断幕や立て看板で洛西寮まつりの開催を周知。
⑤ 小さい子ども達から大人まで幅広い層の方の参加できるイベントのゲーム大会などで盛り上がった。
⑥ テントの配置をかえ、長いすなど多くのイスをだし、前庭でも座って食べられるようした。
⑦ 一昨年に引き続き、屋台のクレープ屋さん（盲人ホーム美鈴のご家族）などにもきてもらい、利用者はじめ多くの方が購入され目標の 120 個を売り上げた。
⑧ 体験コーナーの卓球バレーでは、利用者と来客者が一緒になって取り組んでいた
⑨ 本年度より、マッサージをホールでおこない、より多くの人の目に触れることで、宣伝と誘導に力を入れた
⑩ 他施設の自主製品の販売をホールにて行ってもらい、たんぽぽハウスの喫茶コーナーでは、予想以上の売上を得た。集客にもつながった。

【課 題】

① 利用者の参加の形が曖昧で、来場者として参加するのか主催者側の立場で参加するのかを明確にした方が良い。
② 天候によって来場者数が左右され、予想以上の人が来場されると、飲食が、早くに完売してしまう。
③ 玄関の金券売場が混雑し、出入りを妨げてしまった。
④ 啓発コーナへの誘導と参加案内。
⑤ 魅力ある集客を得られるイベントの企画内容の検討
⑥ 職員の高齢化にも伴い、学生ボランティアの確保及びボランティアの配置
⑧ 駐車場の借用

【実 績】

来場者：約 300 名
協力ボランティア：34 名（登録 28、学生他 6）みやびワイズメンズクラブ　6 名
後援・助成：京都新聞社会福祉事業団、読売光と愛の事業団
後　　援：京都府視覚障害者協会、京都市社会福祉協議会
協　　力：みやびワイズメンズクラブ

② 第 32 回法人研修旅行

【概 要】

開催日時：平成 29 年 11 月 16 日（木）～17 日（金）
行　　先：四国（鳴門、阿波、高知、琴平）
内　　容
　1 日目：大鳴門橋、阿波踊り、旅館での宴会
　2 日目：金刀比羅宮参拝、うどん作り体験
宿 泊 先：高知市内　土佐御苑

【成 果】

① 利用者旅行委員の主体的な旅行への関わりと、任された役割を果たす活躍が目立った。
② 旅行委員から良い影響を受け、利用者全体に主体的に体感したり参加したりする空気が広がった。
③ 早めの準備を進めたことが、利用者が積極的に参加できる企画の充実につながった。
④ 利用者ニーズをとらえ希望参加、希望体験とした。
⑤ 事前の準備・打ち合わせにより、食事制限のある方にも十分な対応をしてもらえた。
⑥ 旅行会社 3 社に見積もり・プラン作成を依頼。結果、充実した内容になった

【課 題】

① 利用者ニーズの多様化への対応
② 利用者の障害や個別事情の多様化で、施設面のバリアなどの周到なリサーチの必要性
③ ボランティアの確保・養成強化
④ 予算確保
⑤ 上記課題を含めた総合的な法人研修旅行のあり方検討

【実 績】

過去 5 年間の旅行参加人数

年度	行先	利用者	職員	ボランティア	合計
25	北陸	49 人	23 人	17 人	89 人
26	和歌山	46 人	21 人	19 人	86 人
27	愛知・三重	48 人	20 人	20 人	88 人
28	金沢	33 人	20 人	9 人	62 人
29	四国	41 人	20 人	17 人	78 人

③ 西京区視覚障害者支援ボランティア養成講座

【概 要】

日時：平成 30 年 2 月 3 日（土）10：00～12：00
会　　場：新林会館　会議室
内　　容：視覚障害についての講義、弱視体験、手引講習など

毎年、ボランティア養成講座を洛西寮で開催していたが、参加者数が集まらないことがここ数年続いたため、今年度は新たな試みとして洛西寮を飛び出し、洛西寮以外での地域での開催を行った。見込みでは大幅な参加者数が予想されていたが、インフルエンザの流行のため実際の参加者数は少し増えたに留まった。さらに肝心のボランティア登録にまではこぎつけることができずに至っている。

【成 果】

① 西京区社会福祉協議会、西京視覚障害者協会との共催で、講習内容、外部講師などで協力を得た。
② 地域への視覚障害福祉啓発の役割を果たしている。
③ 西京区社会福祉協議会との共催により、広範な宣伝や補助金による運営支援を受けた。

【課 題】

① 参加者数を増やす。
② ボランティア登録者を増やす。

【実 績】

参加者数 13 名
登録者数　0 名

６．共催事業

① 第 51 回白杖安全デー（京都市内）

【概 要】

日　時：平成 29 年 10 月 8 日（日）13:30～15:30
会　場：集会　京都府立盲学校　花ノ坊校地　体育館
　　街頭啓発　阪急「河原町」駅、ＪＲ「京都」駅、京阪「三条」駅と地下鉄東西線「三条京阪」駅との連絡通路、地下鉄烏丸線「四条」駅
テーマ：「誰もが安心して歩ける道・ＫＹＯから未来へ」
　　～白い杖や盲導犬を使っている人に声をかけてください～
参加者：約 250 名

【成 果】

① 集会では、啓発活動の報告と当日の様子を上映し、当事者からの声を届けることで「安心して歩ける福祉の街づくり」について考える場を共有することが出来た。

② 啓発活動では、シュプレヒコールや啓発のチラシを用いて、より広範な市民に対して外出時のマナーや意識の向上、視覚障害者福祉への理解を求め、視覚障害者にとっての「声かけ」の重要性を訴えることができた。

② 第 43 回あい・らぶ・ふぇあ（視覚障害者福祉啓発事業）

【概 要】

開催期間：平成 30 年 1 月 25 日（木）～28 日（日）10 時～18 時

会　　場：大丸京都店 6 階イベントホール

内　　容：

・催し

ディスクジョッキー谷口キヨコ氏とシンガーソングライター原田博行氏の当事者インタビューや歌、琴の演奏等各種ライブ、講演、絵画コンクール表彰式　等

・体験・展示コーナー

音の 3Ｄ体験、キッズゲーム、点字体験、便利グッズ紹介、ブラインド喫茶、誘導（手引き）体験、ボランティア活動紹介、点字郵便紹介　等

・絵画コンクール

小学生を対象にした絵画 180 点を展示

・販売コーナー

関西盲導犬協会、FS トモニー、洛西寮

参 加 者：約 1,500 人（4 日間）